

インタラクションを通じた  
英語の自律的相互学習：  
カメラは今・ここを映すことで学習を促す

森下美和（神戸学院大学）

原田康也（早稲田大学）

2015年3月7日 日本英語教育学会第45回年次研究集会

# 発表の流れ

- 1) 背景
- 2) 研究の目的
- 3) 事例1 (神戸学院大学)
- 4) 事例2 (早稲田大学)
- 5) 今後の研究

# 背景

- 「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想  
(文部科学省, 2002)

⇒ コミュニケーション重視の授業が増加  
(ただし, 効果の検証は十分でない)

- グローバル人材育成推進事業 (文部科学省ほか, 2012)

⇒ 自民党教育再生実行本部が大学入試にTOEFL iBTの導入を提言 (2013)

# 背景

## ● アジア諸国のTOEFL® iBTの平均スコア (ETS, 2014他)

	R	L	S	W	T
Singapore	24	25	24	25	98
India	22	23	23	23	91
Korea, Republic of	22	21	21	22	85
China	20	18	19	20	77
Japan	18	17	17	18	70
AVERAGE	18	19	21	21	79

アジア  
最下位

32か国中  
27位

# 第二言語習得仮説

- **インプット仮説** (Krashen, 1985): 言語習得には、大量の理解可能なインプットが必要
- **アウトプット仮説** (Swain, 1985): アウトプットは、学習者が意味の処理から構文の処理へと向かうことを助ける
- **インタラクション仮説** (Long, 1996): インタラクションは、インプットとアウトプットによって学習者に修正の機会を与え、第2言語の発達を促す

⇒ **コミュニケーション重視の授業によって実現可能**

# 発表の流れ

- 1) 背景
- 2) 研究の目的
- 3) 事例<sub>1</sub> (神戸学院大学)
- 4) 事例<sub>2</sub> (早稲田大学)
- 5) 今後の研究

# 日本人大学生に見られる問題点

- 英語の発音に対する基礎的な知識と訓練が不足している。
- 習得している語彙が実用的な英語運用に必要なレベルに達していない。
- 文法・構文に対する知識が不足し、時間的制約のある状況での運用訓練が欠如している。
- 口頭で発表し、質問を聞いて理解し、即座に口頭で答えるというようなリアルタイムでの英語運用の経験と訓練が欠如している。
- 特に、疑問文を産出する経験が文字でも口頭でもほとんどなく、きわめて大きな困難を伴う。

# 研究の目的

授業における限られた時間の中で、効果的なコミュニケーション活動を行うための方法論を提案



# 発表の流れ

- 1) 背景
- 2) 研究の目的
- 3) 事例1 (神戸学院大学)
- 4) 事例2 (早稲田大学)
- 5) 今後の研究

# 参加者

- 外書講読クラス(経営学部2年生):30名
- Oxford Quick Placement Test (Oxford University Press, 2004) のスコア : Elementary (CEFR A2レベル)

# CEFRとは

- 語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格 (Council of Europe, 2001)
- A1からC2まで6レベルのCan do list
- A2レベルでは・・・
  - 日常の基本表現を理解して、簡単なやりとりができる
  - 家族・近所・買い物などの基本的な表現がほぼ理解できる
  - 簡単な表現を使って自分の近況報告ができる
  - 短いメモやメッセージが書ける

# OQPT vs VET

- 原田康也・森下美和. (2013). 「日本人英語学習者の言語処理と言語運用能力：Versant English Test のスコアを中心に」, 電子情報通信学会技術報告(信学技報) IEICE Technical Report TL2013-14, vol. 113, No. 174, pp. 1-6, ISSN 0913-5685, 社団法人 電子情報通信学会.
  - 英語の習熟度にかかわらず, 知識と運用の乖離がみられた
- ⇒ 言語運用に焦点を絞った指導の必要性

# 授業内容

- プレゼンテーションに基づくコミュニケーション活動  
(Cengage Learning “Presentations to Go”使用)
- 1回目: Introducing Japan (グループ)
- 2回目: Talking About Your Future Plans (個人)

# スモール・ステップでの英文運用練習

- 1) 例文を聞いてリピートする(1回目)
- 2) 例文を見てタイプする
- 3) 例文を聞いてタイプする
- 4) 例文を聞いてリピートする(2回目)
- 5) すべての例文を言えるようにグループ内で練習し, 1人ずつ録音／録画する

# 例文（全体の流れ）

- 1) Hello, everyone. I'm Tom Cruise.
- 2) I'm a second-year student at Kobe Gakuin University.
- 3) I'm in the faculty of Business Administration.
- 4) Today, I'd like to talk about Japan.
- 5) First, let me talk about Japanese history.
- 6) Now, let me move on to the next topic.
- 7) In conclusion, Japan is a safe country.
- 8) This is the end of my presentation.
- 9) Thank you very much for your kind attention.
- 10) Do you have any questions?

# 例文(質問・コメント)

- 1) May I ask you a question?
- 2) Could you repeat it?
- 3) Could you tell me more about it?
- 4) Can you give me a reason?
- 5) What did you mean by that?
- 6) What's the difference between A and B?
- 7) Please speak more slowly.
- 8) I agree with you.
- 9) Your presentation was very helpful.
- 10) I learned a lot from your presentation.



# 例文(表やグラフの説明)

- 1) Please look at this pie chart.
- 2) I'd like to explain this bar graph.
- 3) The vertical line shows the number of people.
- 4) This graph shows that the quality will improve.
- 5) According to a survey, Japanese society is aging.
- 6) This survey is based on interviews with 200 students.
- 7) There are about 40 thousand schools in Japan.
- 8) Australia is 20 times larger than Japan.
- 9) 50% of the people are interested in English.
- 10) We expect the number of visitors to grow by 10%.

- これから、簡単な英文を1文ずつ聞いてもらいます。音声は1度しか流れませんので、注意してください。音声を終了すると、自動的に画面が切り替わります。
- 直前に聞いた英文をそのまま表現を変えずにリピートしてください。15秒経過すると、自動的に画面が切り替わり、次の英文の音声が出てきます。
- 全部で10問あります。

# 1. Listen



1. Repeat

# 英文運用練習の効果

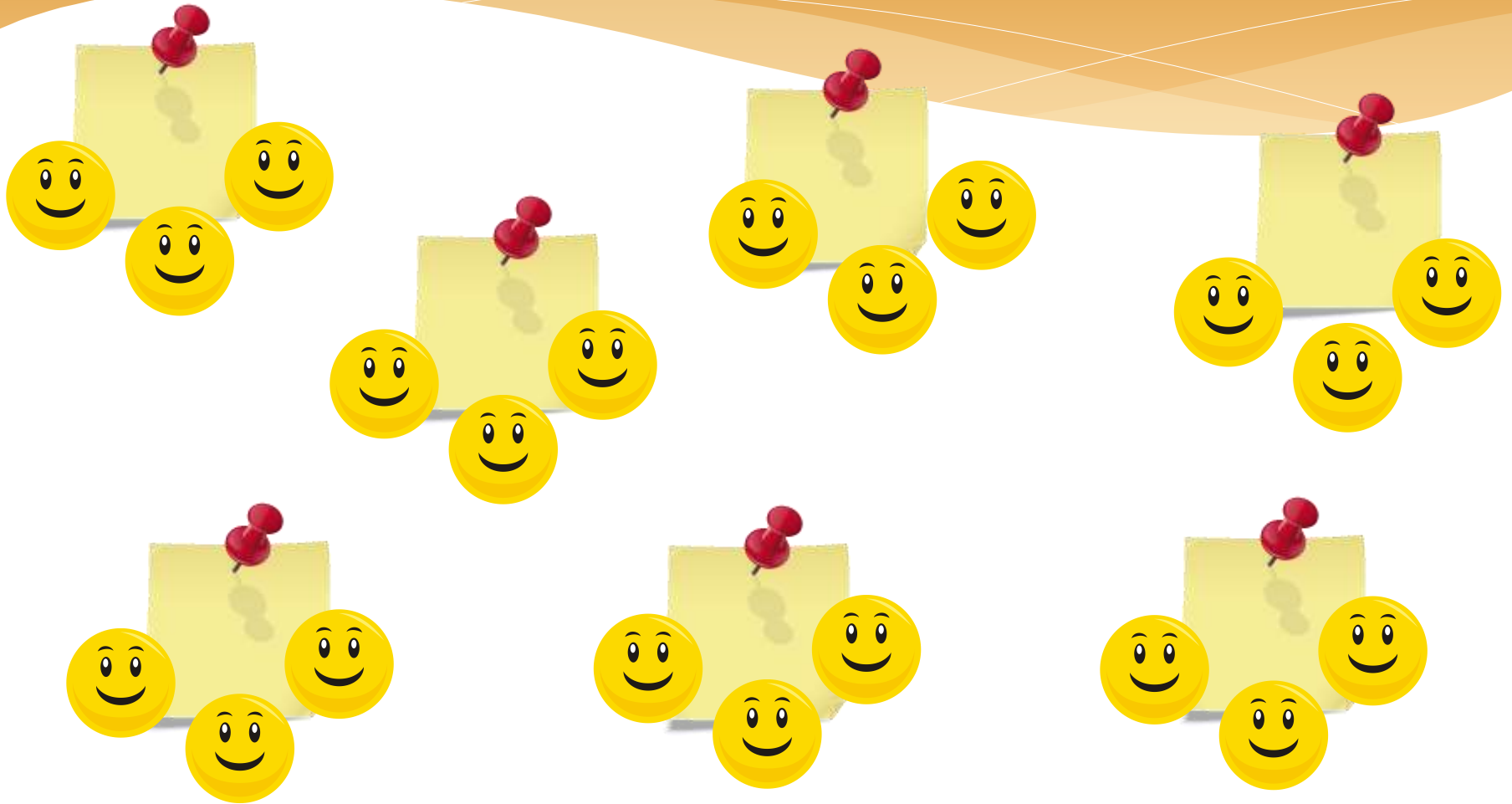
- 徐々に難易度が上がると考えられるにも関わらず、全体として正答率が徐々に上がり、内容が同じである1)と4)の正答率も有意に伸びていた
- 5)についても、大半の学生が比較的スラスラと言えるようになっていた

⇒パワーポイントの教材を用いたスモール・ステップによる英文運用練習の効果が認められた

# ポスター・プレゼンテーション

- 1) クラス全体(30人)を4グループに分けた。
- 2) 各グループ(7~8人)は順番にプレゼンターとなり、一斉に教室内にポスターを貼り、ウェアラブルカメラを装着した。
- 3) 他のグループの学生は、興味を持ったポスターの前に移動し、1つのポスターにつき、2~3人がオーディエンスになった。
- 4) 各ポスターのオーディエンスのうち1人は、ビデオカメラでプレゼンテーションを撮影した。
- 5) プレゼンテーションは5分、Q&Aセッションは1分とし、1人につき2セッションを行った。1回目が終わったら、プレゼンターはそのままで、オーディエンスだけ別のポスターに移動した。
- 6) 2回目も上記と同じ手順で行い、終わったら次のグループと交代した。

# プレゼンテーションのイメージ



# 機材使用の効果

- ウェアラブルカメラを使用したプレゼンテーションでは、プレゼンターが目線で自分自身の発表とオーディエンスの質疑応答の様子を録画できる

⇒ 下を向いて原稿を読むのではなく、なるべくオーディエンスに向かって話しかけるように意識したという感想が目立つ

- オーディエンスによるビデオ撮影では、プレゼンテーション全体の様子を客観的に録画できる

⇒ 記録用としてはこちらを採用



# アンケート結果(5件法)

プレゼン表現の練習は、

1) プレゼンの準備で役に立ちましたか？(3.40)

+ 原稿作りに役立った

- プリントで配ってほしかった

2) 自分がプレゼンをするときに役に立ちましたか？(3.32)

+ プレゼンの構成が分かった

- 覚えていなかったのであまり役に立たなかった

# アンケート結果(5件法)

プレゼン表現の練習は、

3) クラスメイトのプレゼンを理解するときに役に立ちましたか？(3.08)

+ 話の流れがよく分かった

- 理解と練習は別

4) クラスメイトのプレゼンに質問をするときに役に立ちましたか？(2.92)

+ 質問の回数・種類が増えた

- あまり質問できなかった

# 発表の流れ

- 1) 背景
- 2) 研究の目的
- 3) 事例1 (神戸学院大学)
- 4) 事例2 (早稲田大学)
- 5) 今後の研究

# 発表の流れ

- 1) 背景
- 2) 研究の目的
- 3) 事例1(早稲田大学)
- 4) 事例2(神戸学院大学)
- 5) 今後の研究

ご清聴  
ありがとうございました

[morisita@ba.kobegakuin.ac.jp](mailto:morisita@ba.kobegakuin.ac.jp)

[harada@waseda.jp](mailto:harada@waseda.jp)

